

2023年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月10日

上場会社名 一正蒲鉾株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2904 URL <http://www.ichimasa.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 野崎 正博
 社長執行役員
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 常務執行役員 (氏名) 高島 正樹 (TEL) 025-270-7111
 経営企画部長
 四半期報告書提出予定日 2023年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年6月期第2四半期の連結業績(2022年7月1日~2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年6月期第2四半期	18,080	2.8	311	△60.0	366	△55.9	350	△44.4
2022年6月期第2四半期	17,593	—	777	△50.0	831	△47.6	631	△48.5

(注) 包括利益 2023年6月期第2四半期 205百万円(△59.5%) 2022年6月期第2四半期 508百万円(△62.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年6月期第2四半期	19.09	—
2022年6月期第2四半期	34.28	—

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を2022年6月期第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年6月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、売上高の対前年四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年6月期第2四半期	29,854	13,846	46.4
2022年6月期	25,296	13,862	54.8

(参考) 自己資本 2023年6月期第2四半期 13,846百万円 2022年6月期 13,862百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年6月期	—	0.00	—	12.00	12.00
2023年6月期	—	0.00	—	—	—
2023年6月期(予想)	—	—	—	12.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年6月期の連結業績予想(2022年7月1日~2023年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	34,000	7.5	500	△8.4	500	△19.8	470	△16.9	25.57

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 社(社名) 、除外 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年6月期2Q	18,590,000株	2022年6月期	18,590,000株
2023年6月期2Q	212,088株	2022年6月期	212,088株
2023年6月期2Q	18,377,912株	2022年6月期2Q	18,415,141株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

(注) 当社は「株式給付信託(BBT)」を導入しており、期末自己株式数については、「株式給付信託(BBT)」が保有する当社株式(2023年6月期2Q147,000株、2022年6月期147,000株)が含まれています。また、期中平均株式数(四半期累計)の計算において控除する自己株式については、「株式給付信託(BBT)」が保有する当社株式(2023年6月期2Q147,000株、2022年6月期2Q109,771株)を含めています。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（2022年7月1日～2022年12月31日）におけるわが国経済は、2022年春以降、ウィズコロナの下、社会経済活動の正常化が進みつつあり、行動制限や入国制限の緩和によりサービス消費を中心に回復の動きがみられ、景気は持ち直しの動きを見せました。

しかしながら、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化、米国FRBの政策金利引き上げによる日米金利差の拡大や日本の貿易赤字等を背景とした急激な円安の影響等により、すり身をはじめとした原材料価格や電気ガス等エネルギー価格の高騰に加え、人手不足を背景とした人件費の増加など、多くのコストが想定をはるかに超えて上昇しており、当社グループを取り巻く経営環境はかつてない厳しさとなっています。

このような状況のもと、当社グループでは、“ICHIMASA30ビジョン”（2045年度のありたい姿）を目指し、2021年7月から2026年6月までの第二次中期経営計画の2年目を迎え、“国内外のマーケットへの果敢なチャレンジを通じ、事業の成長力・収益力基盤を確立し、ファーストステージ「成長軌道」を確実に実現する。”を基本方針として経営課題に取り組んでいます。

また、地球環境の維持は企業活動の持続的な成長・発展のためには不可欠であり、「持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）」の達成を目指し、当社グループもステークホルダーの皆さまと協働しながらサステナブルな課題の解決に取り組んでいます。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は180億80百万円（前年同四半期比4億87百万円（2.8%）の増加）、営業利益は3億11百万円（前年同四半期比4億66百万円（60.0%）の減少）、経常利益は3億66百万円（前年同四半期比4億64百万円（55.9%）の減少）、親会社株主に帰属する四半期純利益は3億50百万円（前年同四半期比2億80百万円（44.4%）の減少）となりました。

セグメントの状況は、次のとおりです。

① 水産練製品・惣菜事業

売上は、2022年9月1日納品分より水産練製品・惣菜類において約5%から20%の価格改定を行っていることと、主力製品群のカニかまやおでん商材は堅調な販売推移となったことから、前年同四半期を上回りました。

年末のおせち商品は、主原料・副材料のすべてが国産の「純」シリーズの伊達巻や蒲鉾の売上が伸長しました。

利益は、主原料であるすり身をはじめとした原材料価格の高騰が続いており、ウクライナ情勢や急激な円安などによる影響でエネルギーコストや油脂類、包装資材といった様々なコストも上昇したことから、前年同四半期を下回る結果となりました。

このような厳しいコスト環境を背景として、2023年3月1日納品分より水産練製品・惣菜類において約5%から15%の価格改定を行う予定です。

以上の結果、当セグメントの売上高は157億33百万円（前年同四半期比5億27百万円（3.5%）の増加）、セグメント利益（営業利益）は1億19百万円（前年同四半期はセグメント利益（営業利益）3億60百万円）となりました。

② きのこと事業

野菜市況は前年を上回り、きのこ市況に関しても前年を上回る推移でしたが、舞茸については、他社増産の影響による供給過多状態もあり軟調な推移となりました。

生産は、安定栽培や生産の効率化、品質管理体制の強化に努めるとともに、販売は、大容量商品や新発売の「希なり」の提案、外食・業務用筋への提案拡大により、消費喚起・販売強化に努めました。

以上の結果、当セグメントの売上高は21億11百万円（前年同四半期比15百万円（0.7%）の減少）、セグメント利益（営業利益）は1億33百万円（前年同四半期はセグメント利益（営業利益）3億88百万円）となりました。

③ その他

(運送事業・倉庫事業)

運送事業は、主に気象影響による輸入青果物の取扱数量の減少及び定期輸送便の一部終了により、売上は前年同四半期を下回りましたが、燃料費価格の上昇がみられたもののコスト削減に向けた固定費の縮減により、利益は前年同四半期を上回る結果となりました。

倉庫事業は、コロナ禍による荷動きの停滞がみられたものの高い在庫水準を維持し、収益性の改善に向けた庫内管理の最適化を着実に推し進めた結果、売上、利益ともに前年同四半期を上回りました。

以上の結果、報告セグメントに含まれないその他の売上高は2億36百万円（前年同四半期比25百万円（9.6%）の減少）、セグメント利益（営業利益）は54百万円（前年同四半期はセグメント利益（営業利益）22百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（流動資産）

当第2四半期連結会計期間末における流動資産の残高は130億24百万円（前連結会計年度末比39億12百万円の増加）となりました。これは主に現金及び預金の減少の一方、季節的要因による売掛金並びに原材料及び貯蔵品の増加によるものです。

（固定資産）

当第2四半期連結会計期間末における固定資産の残高は168億29百万円（前連結会計年度末比6億45百万円の増加）となりました。これは主に有形固定資産の減価償却の進行の一方、本社第二工場の建設仮勘定の増加によるものです。

（流動負債）

当第2四半期連結会計期間末における流動負債の残高は135億44百万円（前連結会計年度末比51億80百万円の増加）となりました。これは主に季節的要因による短期借入金並びに支払手形及び買掛金の増加によるものです。

（固定負債）

当第2四半期連結会計期間末における固定負債の残高は24億62百万円（前連結会計年度末比6億5百万円の減少）となりました。これは主に長期借入金の減少によるものです。

（純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上及び配当金の支払等により138億46百万円（前連結会計年度末比16百万円の減少）となり、自己資本比率は、主に季節的要因による売掛金の増加により総資産が増加したため、前連結会計年度末の54.8%から46.4%となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年6月期の通期の連結業績予想については、本日公表の2023年6月期第2四半期（累計）連結業績予想値と実績値との差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせをご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,318,833	1,129,951
売掛金	2,884,656	6,705,166
商品及び製品	888,761	675,173
仕掛品	531,453	420,884
原材料及び貯蔵品	2,289,432	3,843,720
その他	199,892	250,709
貸倒引当金	△559	△987
流動資産合計	9,112,470	13,024,619
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,324,171	4,243,993
機械装置及び運搬具(純額)	2,860,568	2,593,529
工具、器具及び備品(純額)	167,085	150,799
土地	3,179,344	3,179,344
リース資産(純額)	179,705	159,274
建設仮勘定	2,232,915	3,486,941
有形固定資産合計	12,943,791	13,813,882
無形固定資産	434,986	418,883
投資その他の資産		
投資有価証券	2,466,889	2,109,275
その他	362,424	511,942
貸倒引当金	△24,500	△24,500
投資その他の資産合計	2,804,814	2,596,718
固定資産合計	16,183,592	16,829,484
資産合計	25,296,062	29,854,103
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,984,765	3,329,007
短期借入金	2,723,152	6,362,852
未払法人税等	176,906	131,084
賞与引当金	80,828	81,552
役員賞与引当金	18,672	—
未払金及び未払費用	1,860,553	2,047,745
その他	1,519,521	1,592,581
流動負債合計	8,364,399	13,544,822
固定負債		
社債	200,000	150,000
長期借入金	2,376,335	1,811,109
役員退職慰労引当金	36,988	37,575
役員株式給付引当金	97,280	105,957
繰延税金負債	9,177	18,142
その他	348,888	340,060
固定負債合計	3,068,671	2,462,843
負債合計	11,433,070	16,007,666

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	940,000	940,000
資本剰余金	650,000	650,000
利益剰余金	11,320,455	11,449,030
自己株式	△166,135	△166,135
株主資本合計	12,744,320	12,872,894
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,103,143	945,517
為替換算調整勘定	15,528	28,025
その他の包括利益累計額合計	1,118,672	973,542
純資産合計	13,862,992	13,846,436
負債純資産合計	25,296,062	29,854,103

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年7月1日 至2021年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年7月1日 至2022年12月31日)
売上高	17,593,141	18,080,720
売上原価	13,996,330	14,813,131
売上総利益	3,596,811	3,267,588
販売費及び一般管理費	2,819,424	2,956,372
営業利益	777,386	311,215
営業外収益		
受取利息	500	1,002
受取配当金	17,831	15,394
受取賃貸料	9,535	6,236
受取手数料	15,636	11,574
売電収入	11,344	11,257
有価証券償還益	—	8,530
持分法による投資利益	3,079	10,259
雑収入	13,558	12,965
営業外収益合計	71,486	77,220
営業外費用		
支払利息	11,956	16,440
減価償却費	5,394	5,394
雑損失	245	184
営業外費用合計	17,596	22,019
経常利益	831,277	366,417
特別利益		
固定資産売却益	2,365	—
投資有価証券売却益	118,636	174,321
特別利益合計	121,002	174,321
特別損失		
固定資産除却損	443	2,165
特別損失合計	443	2,165
税金等調整前四半期純利益	951,835	538,573
法人税、住民税及び事業税	193,283	112,393
法人税等調整額	127,304	75,306
法人税等合計	320,588	187,700
四半期純利益	631,247	350,873
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	631,247	350,873

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年7月1日 至2021年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年7月1日 至2022年12月31日)
四半期純利益	631,247	350,873
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△137,451	△157,626
持分法適用会社に対する持分相当額	14,745	12,496
その他の包括利益合計	△122,705	△145,130
四半期包括利益	508,541	205,743
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	508,541	205,743
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年7月1日 至2021年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年7月1日 至2022年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	951,835	538,573
減価償却費	691,814	654,887
貸倒引当金の増減額(△は減少)	432	428
賞与引当金の増減額(△は減少)	1,141	724
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	835	586
役員株式給付引当金の増減額(△は減少)	△2,073	8,676
受取利息及び受取配当金	△18,332	△16,396
支払利息	11,956	16,440
持分法による投資損益(△は益)	△3,079	△10,259
投資有価証券売却損益(△は益)	△118,636	△174,321
固定資産売却損益(△は益)	△2,365	—
固定資産除却損	443	2,165
売上債権の増減額(△は増加)	△3,707,863	△3,938,436
棚卸資産の増減額(△は増加)	△96,945	△1,230,131
仕入債務の増減額(△は減少)	998,545	1,509,607
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	—	△18,672
未払金及び未払費用の増減額(△は減少)	401,226	555,726
その他	365,420	△103,015
小計	△525,644	△2,203,418
法人税等の支払額	△43,589	△145,488
法人税等の還付額	247,092	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	△322,141	△2,348,907
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(△は増加)	△1,000	△6,500
有形固定資産の取得による支出	△886,855	△1,962,544
有形固定資産の売却による収入	4,051	—
無形固定資産の取得による支出	△6,296	△500
投資有価証券の取得による支出	△2,855	△2,747
投資有価証券の売却及び償還による収入	135,226	359,841
関係会社株式の取得による支出	—	△9,764
利息及び配当金の受取額	18,332	16,396
投資活動によるキャッシュ・フロー	△739,396	△1,605,818
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	1,800,000	3,700,000
長期借入金の返済による支出	△639,574	△625,526
社債の償還による支出	△50,000	△50,000
利息の支払額	△11,776	△15,917
配当金の支払額	△185,249	△222,298
その他	△102,942	△27,914
財務活動によるキャッシュ・フロー	810,457	2,758,343
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	1,001
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△251,079	△1,195,381
現金及び現金同等物の期首残高	1,286,873	2,282,817
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,035,793	1,087,435

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	水産 練製品・ 惣菜事業	きのこ事業	計				
売上高							
顧客との契約から生じる収益	15,205,433	2,126,625	17,332,058	261,082	17,593,141	—	17,593,141
その他収益	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	15,205,433	2,126,625	17,332,058	261,082	17,593,141	—	17,593,141
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	253,431	253,431	△253,431	—
計	15,205,433	2,126,625	17,332,058	514,514	17,846,573	△253,431	17,593,141
セグメント利益	360,312	388,558	748,871	22,212	771,083	6,302	777,386

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない運送事業、倉庫事業セグメントです。

2 セグメント利益の調整額6,302千円は、主にセグメント間取引消去です。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	水産 練製品・ 惣菜事業	きのこ事業	計				
売上高							
顧客との契約から生じる収益	15,733,394	2,111,254	17,844,649	236,071	18,080,720	—	18,080,720
その他収益	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	15,733,394	2,111,254	17,844,649	236,071	18,080,720	—	18,080,720
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	299,172	299,172	△299,172	—
計	15,733,394	2,111,254	17,844,649	535,243	18,379,892	△299,172	18,080,720
セグメント利益	119,532	133,417	252,949	54,841	307,790	3,425	311,215

- (注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない運送事業、倉庫事業セグメントです。
- 2 第1四半期連結会計期間より、報告セグメントごとの業績をより適切に反映させるために、全社費用の配賦基準を見直し、事業セグメントの利益又は損失の算定方法の変更を行っています。なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の利益又は損失の算定方法により作成したものを記載しています。
- 3 セグメント利益の調整額3,425千円は、主にセグメント間取引消去です。
- 4 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。
2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。